

スマホやゲーム機の写真や動画撮影で 気を付けなくてはいけないこと

御存知のとおり、スマートフォンや携帯ゲーム機の多くはカメラ機能を有していて、子どもたちはそれを使って気軽に写真や動画撮影ができる時代です。子どもたちの間では、Twitter（ツイッター）やInstagram（インスタグラム）などの画像をインターネット上に気軽に投稿できるSNSの利用が増えており、それに伴いトラブルに発展する事案も増えています。

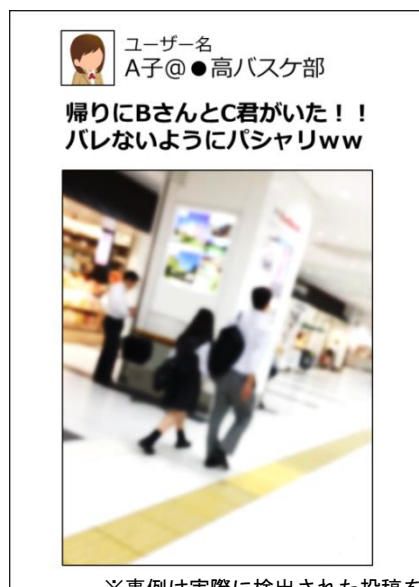
写真や動画でコミュニケーションを図る子どもたち

子どもたちにとって、写真や動画は「どこで/誰と/何をしているか」を簡単に記録し、すぐに仲間と共有できるコミュニケーションツールであると同時に、写真や動画をSNSに投稿することで、自分の価値観を仲間以外にも表現できるツールでもあります。正しい知識があれば、たくさんの思い出を記録し仲間と共有することができる素晴らしいツールですが、最近では、知識やモラルの理解不足から、他人にカメラを向けることに配慮ができなかったり、他人の写真を無断でインターネット上に投稿したり、飲酒や喫煙などの不良行為を悪気なく投稿したりするなど、後からトラブルになるケースも少なくはありません。

知っておかなければいけない情報モラル

平成29年5月1日に「北海道迷惑行為防止条例」が改正され、学校などでの盗撮行為も処罰の対象になるなど、盗撮等の卑猥な行為の規制が強化されました。また、同意を得て撮影した写真や動画であっても、インターネット上に無断で掲載することは肖像権の侵害（人権侵害）に当たるなど、法律に違反する犯罪行為であることを子どもたちは理解しておかなければなりません。

「インターネット上には投稿しないし、バレなければ大丈夫」と、写真を撮る子どもがいますが、バレなかったとしてもその行為自体がいけないことなのだという認識を、子どもたち自身に持たせなければなりません。また、友達の間でも写真を撮られることが嫌だったり、インターネット上に投稿されることが嫌だと感じる人もいるという、個人の認識の違いを理解することも大切です。



※事例は実際に検出された投稿をもとに、
当資料のために作成したものです。

御家庭での対応

スマートフォンや携帯型ゲーム機など、カメラ機能がついたインターネット機器を子どもに持たせる際には、「他人を勝手に撮影しない」「許可なく他人の写真や動画をインターネット上に投稿しない」ということを最初に伝えましょう。また、子どものカメラの使い方にも気を配ってください。例えば風景を撮る際にも、その場にいる人が写り込んでしまうことがあり、人によってはそれを「勝手に撮られた」と不快に感じる場合があります。また、写真や動画をインターネット上に投稿する際には、写ってしまった人の顔がわからないよう加工するなどの配慮が必要です。インターネットの使い方と同様、最初は大人の目の届く範囲で使わせ、誤りはそのつど正してあげることが大切です。